

日本たまごかけごはんシンポジウム

「日本たまごかけごはんシンポジウム」を主催する「日本たまごかけごはん楽会」は、島根県雲南市吉田町（旧吉田村）にあります。旧吉田村は、平成16年11月に近隣6町村との合併により雲南市となりましたが、合併町村の中で最も人口が少なく、広島県境の山間地域だったため、人の流れが途絶え過疎に拍車がかかり地域の機能が失われ地域がさびれていくのではないかと懸念していました。

そこで、目をつけたのが、旧吉田村の第3セクター「吉田ふるさと村」が販売していた「卵かけ飯専用醤油 おたまはん」でした。平成14年発売開始よりその珍しさからメディアに取り上げられたり、お客様からも楽しい反応をいただいていた。あわせて旧吉田村は美味しいお米がとれると評価の高い地域であり、また、こだわりの卵を生産する業者もあったことから、「たまごかけごはん」で地域の新しい賑わいづくりをしようと始めたのが「日本たまごかけごはんシンポジウム」です。

第1回は平成17年10月28～30日の3日間開催し、最終日の30日には「たまごかけごはん宣言」をし、同日を「たまごかけごはんの日」と制定しました。この取り組みは各種メディアからの取材や個人ブログなどにより反響を得ることができ、「たまごかけごはん」ブームが起きました。

日本たまごかけごはん楽会では、「たまごかけごはん」への様々な思いを感じることのできる作品をシンポジウムに先だって募集し、シンポジウム当日に発表と表彰が行われます。また、例年来場者に絶大な支持を得ているのが、羽釜で炊いた地元コシヒカリを「たまごかけごはん」で味わう「たまごかけごはん吟味会」。昨年からは使い捨ての箸と丼の提供をせず、来場者にはマイ箸・マイ丼を持参しての参加を呼びかけています。

今年で第4回を迎える「日本たまごかけごはんシンポジウム」は平成20年10月25・26日

の二日間開催されます。シンポジウムを通して、家族で囲む食卓の大切さや十分にいただける食事のありがたさに感謝する機会になればと思っています。ぜひご来場ください。また、HPでも随時情報発信を行っています。

<http://www.tamagokake-gohan.com/>



卵の殻をつかったモザイク画のオブジェづくり。写真は「たまごかけごはん楽会」公式キャラクターの「らん」と「しゃりー」

面積：約553km²
人口：約4万5千人
島根県 雲南市

お問い合わせ先：
日本たまごかけごはん楽会
☎0854-74-0558



長蛇の列ができる「たまごかけごはん吟味会」



参加者から寄せられた作品（レシピ）の表彰式

いきいき電源地域

地域振興に取り組んでいる電源地域の元気な姿を紹介します。

東海I~MOのまつり

東海村は県都水戸市より北東15kmに位置し、東は太平洋に面し西は那珂市、南はひたちなか市、北は久慈川をはさんで日立市と接しています。また、日本における原子力研究開発発祥の地としても全国的に有名です。

東海村を盛り上げようと、村の特産品である「さつまいも」をキーワードに開催される「東海I~MOのまつり」、そのまつり名は「さつまいも」の「いも」と「いいもの（良いもの）」をかけて名付けました。茨城県内で唯一の「さつまいも」を中心にしたとてもユニークなおまつりで、今年も11月23日（日）に開催します。

面積：約37km²
人口：約3万7千人

茨城県 東海村

お問い合わせ先：
東海村役場 経済環境部 経済課
☎029-282-1711（代）

もともとのイベントは、平成7年10月から東海村の農業・商業・工業の活性化のためにはじめたイベントです。現在は村・商工会・農協・原子力事業所が主体となって、11月23日（勤労感謝の日）に行われるイベントとして定着しております。来場者数も年々増えており、東海村三大まつりの一つになりました。

まつりでは、さつまいもを使った参加体験型のイベントを多数ご用意しています。例えば、さつまいもの収穫を体験できる「いも堀探検隊」や制限時間内にさつまいもをより高く積み上げる「いも積み競争」、さつまいもの「大いも珍しいもコンテスト」など、ご家族そろってお楽しみいただけます。また、お子様に人気の「キャラクターショー」や地元の食材を利用した「ふるさと大鍋」、まつりの最後には大抽選会も実施する予定です。まさに収穫の秋を満喫できるまつりですので、是非ご家族ご友人お誘いの上、活気溢れる「東海I~MOのまつり」にご来場ください。



「東海I~MOのまつり」の様子



東海I~MOのまつりキャラクター「イモゾー」



いも積み競争



来場者に大人気の「ふるさと大鍋」

IKIKIKI! IKIKIKI!